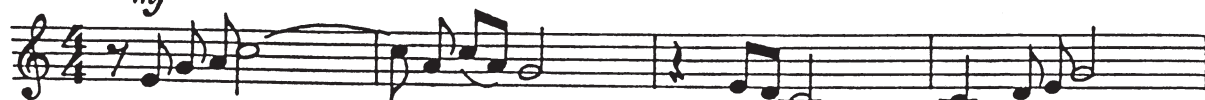


善導大師 二河白道の御和讃

高 津 ときを 作詞
松 濤 基 作曲

♩ = 60 ぐらい

mf



× ○ × × ○ × × ○ × × ○ ×

たびびと	— ひと—り	ひ—が	— しより
こころ	— ひと—んに	し—ず	— むとき
しゅじょう—	— さい—どの	ひ—が	— んより



× ○ × × ○ × × ○ × × ○ ×

にし—に	— む—こうに	た—い	— があり
なみ—の	— まに—まに	み—え	— かくれ
ぜんどう	— だい—しの	さ—と	— されし



× ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ○ × × ○ ×

きたは	— さ—かまく	み—ず	— の—うず
しろく	— か—がやく	ひ—と	— す—じの
にがびゃ	— く—どうの	た—と	— え—こそ



ポイント注意

に が びやく どう
二 河 白 道 和 讚

- (1) 旅人一人 東より 西に向うに 大河あり
北は逆巻く 水の渦 南は燃ゆる 火のほむら
2 深く底無く 辺り無く すい火こもごも 押寄せて
右も左も 荒れ狂う 地獄の谷ぞ 恐ろしき
3 後を見れば 群賊や 野獣の群の 吠え迫る
前へ進むも 助からず 後へ戻るも 亦死なり
4 旅の疲れの 重き足 踏出すべきか 然らずか
進退ここに 谷まりて 憐れ空しく 立ち竦む
(5) 心悲嘆に 沈む時 波の間に間に 見え隠れ
白く輝く 一筋の 道の有るこそ 頼みなれ
6 東の岸に 声ありて 汝行くべし 進むべし
我は釈迦也 守護してぞ 必ず無事に 渡さなん
7 西の岸にも 声ありて 極楽教主の 弥陀如来
御手をさしのべ 励まして 来れ来れと 招かるる
8 勇氣百倍 まっしぐら 歩み運ばば 忽ちに
身は彼岸の 蓮の上 あら有難の 浄土かな
9 怒り貪り 愚かさの 三煩惱に 阻まれて
迷いの里を 出で難き 我等凡夫の 悲しさよ
(10) 衆生済度の 悲願より 善導大師の 諭されし
二河白道の 譬えこそ 頼みの綱と 云うべけれ